

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5820m付近のトラフは日本の東へ進み、対応する低気圧も次第に関東の東へ東進。一方、この低気圧からのびる前線は日本の南から東シナ海を通り華南へのびている。この低気圧の影響で海上を中心に風が強くなり、低気圧からの波源も加わり、東～西日本太平洋側沿岸でうねりを伴い波が高く、伊豆諸島では大しけとなっている。前線近傍にあたる南西諸島周辺では激しい雨を解析し雷を検知。

② 500hPa 5580m以下で-21℃以下の寒気を伴う寒冷渦が中国東北区に

あって東進。寒冷渦を回る500hPa 5640m付近の正渦度極大域に対応した低気圧が日本海を北東進。

③ 華中付近の高気圧が南東へ移動、千島の東の高気圧は北東へ移動している。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①のトラフは先行しており1項①の低気圧は9日は次第に不明瞭となるが海上ではうねりを伴い波が高い状態が続く。西日本太平洋側では8日、東日本太平洋側では9日は強風や高波に注意。

② 1項①の前線は本州の南海上から南西諸島付近を通り華南へのび10日にかけて停滞する。500hPa 5880m付近の正渦度極大域に対応し、9日夜までに前線上の東シナ海で低気圧が発生し南西諸島付近を通過する見込み。前線や低気圧に向かって θ_e 345以上の下層暖湿気が流入し大気の状態が非常に不安定となるため、南西諸島では9日～10日は雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降る見込み。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風に注意。局地的に竜巻などの激しい突風にも注意。その後も前線は南西諸島付近に停滞するため、総降水量が多くなることに留意。

③ 1項②の寒冷渦の影響で10日にかけて北日本を中心に上空に寒気が広がる。また、1項②の日本海の低気圧は8日夜までに前線を伴い北海道付近へ進む。この前線を伴った低気圧は、9日夜にかけて千島近海へ発達しながら進み、前線は閉塞し2項②の前線と一体化する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、北海道地方では大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。北海道地方では9日にかけて土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょうに注意。9日は局地的な暴風にも注意・警戒。

④ 1項③の高気圧と2項の低気圧や前線との間で気圧の傾きが急となるため、北日本と南西諸島では強い風が吹き、波が高くしける所がある。北日本と南西諸島では10日にかけて強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

① 雨量(18時からの24時間)：奄美地方 180、九州南部 150、北海道 100mm。 ② 波浪(明日まで)：北海道・伊豆諸島 4、東北・関東・四国・奄美・沖縄 3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図